

## 田原市にもAED3台

豊橋ハートセンターが寄贈

白井市長にAEDを贈る

鈴木院長より田原市役所で



豊橋市大山町の病院「豊橋ハートセンター」(鈴木孝彦院長)は13日、心臓停止患者の救命処置に最良の電気ショックを与えることができる機器「自動体外式除細動器」(AED)3台を田原市に寄贈した。同市は市役所

をはじめ、福祉センター、田原文化会館に設置した。AEDの使用が昨年7月から医療関係者以外も認められることから、同病院は救命率向上にと地域貢献の一環で東三河の自治体へAEDを贈っている。小型で軽量の機器で、

音声による指示が出る。倒れている人がいた場合、意識、呼吸がなければ、電極パッドを患者の胸に張り、指示に従う。この日、鈴木院長から寄贈を受けた白井孝市市長は「いざというときに役立たせたい」と感謝した。

AEDの設置は市内では初めて。1階に置かれた市役所では市職員がさっそく、AEDを使った心肺蘇(そ)生法に取り組んだ。

同病院はすでに豊川、蒲郡、新城市などにもAEDを寄贈しており、計30台を予定している。

(中村晋也)